

【樹木の部屋】

ソテツ（ソテツ科ソテツ属 *Cycas revoluta*）

和名：ソテツ（蘇鉄） **別名**：鉄蕉（てっしょう）、鳳尾蕉（ほうびしょう）

英名：Japanese sago cycad

ソテツ目 常緑低木 **原産地**：日本、中国

花言葉：雄々しい **花の色**：黄褐色

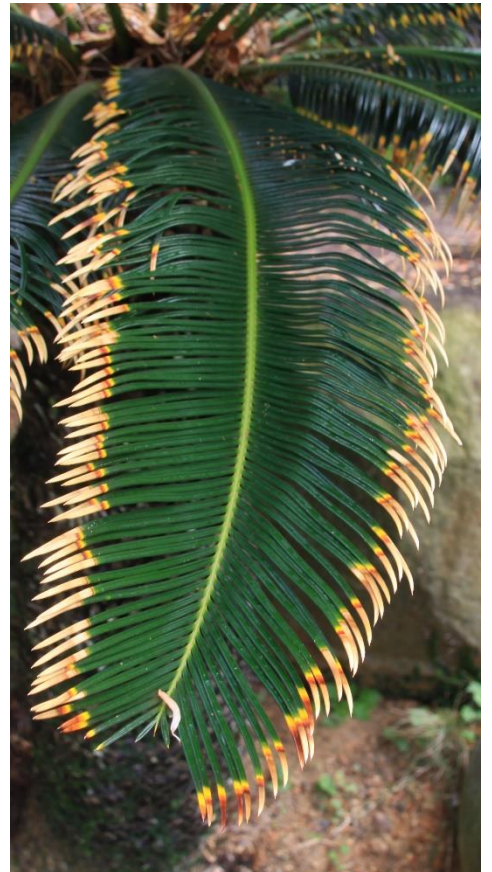


← 写真-1 コガネソテツの樹姿
（キンブチソテツ）

撮影日：2015年02月04日

撮影場所：大島紬村(奄美大島)にて

撮影者：M さん



→ 写真-2 コガネソテツの葉
（キンブチソテツ）

撮影日：2015年02月04日

撮影場所：大島紬村(奄美大島)にて

撮影者：M さん

奄美大島の北部にある、大島紬村を訪れた際、見かけました。一見、葉先が枯れかかっている？と思いきや、葉先だけが黄色になる種でした。宿泊したホテルから海岸沿いに、車を走らせていると、道路沿いに、多く植栽されていました。紬村に来るまでは、潮風に当たって、枯れかかっているのだろうと……。ところが、到着して初めて見る種だと解りま

した。

このほか、葉全体が黄色になるオウゴンソテツ(黄金ソテツ *Cycas revoluta alba*)があるとか・・・。写真-1、2はコガネソテツ(黄金ソテツ)。どちらも黄金。コガネソテツの別名はキンブチソテツ(金縁ソテツ *ycad revoluta aurea*)。

オウゴンソテツには春先だけ黄金になるタイプ、夏の高温期の葉だけが黄金になるタイプ、新芽はいつでも黄金になるタイプなど様々なものが見られるそうです。コガネソテツは、奄美で黄金ソテツとして流通しているソテツで、葉の縁だけが黄色く変化する。この黄色が浅いものや深いもの、また早くに茶色く枯れるものや枯れずに黄色の部分が永く残るものなど様々な変異があるそうです。黄金ソテツは子孫繁栄や富を招く縁起の良い植物として重宝されているそうです。

ソテツの名前の由来は、枯れかかったときに鉄クギを打ち込むとよみがえるということに由来すると考えられ、鉄を受けると元気になる(蘇鉄)という伝承があり、茎にクギを打ち込まれていることがよくあるそうです。

大島紬の泥染ではシャリンバイの樹皮の煮出し汁により色を染め、鉄分の多い泥土につけて発色させますが、この時の染まりが悪いと蘇鉄の葉を入れて化学的作用を強くする場合があるそうです。また、ソテツは、頂点(頭)を傷つけると枯れるといわれています。

< ちょっと一言 >

ソテツは中世ジュラ紀に最も繁栄した植物で、生きた化石ともよばれ中国では植物のパンダと言われているそうです。その中でも黄金ソテツは稀少価値が高く天然物ゆえにどのようにして黄金色のソテツが生まれたのか、まだメカニズムが解明されていないそうです。

ソテツ科ソテツ属はオーストラリア・アフリカ・日本など広い範囲で約20種類の仲間が知られています。現在生きている植物の中では、イチョウと並んで最も原始的なものの一つとされています。